認知症キッズサポーター養成講座



「認知症になっても安心して暮らしていける町を目指して」というテーマでお話をしていただきました。

　認知症の人は自分がおかしくなっていると感じ、誰よりも苦しんだり、悩んだり、悲しんだりしています。だから、周りの人が、その人の不安な気持ちを感じ取ったり、何に困っているかを見てとり、手を貸すことが大切だと学びました。

認知症についての学びを深める劇

①「中学生～曜日編～」

　日曜日に孫のあやちゃんがスマホを触っていると、お爺さんが「あやちゃん、スマホなんか見とらんと、早う学校へ行かなあかんで。」と曜日を間違えている場面です。

　この場面では、どのように対応したらいいのでしょうか。





認知症についての学びを深める劇

②「ごはんまだかいな」

　夕食を食べて部屋にもどったお爺さんが、「わしのごはんまだかいな。」と食べたことを忘れたお爺さんの場面です。

　この場面では、どのように対応したらいいのでしょうか。





感想

・認知症になる人が 8 人に 1 人いることを知りました。今日学んだことを活かして話をしたいと思いました。

・家族の人が認知症になったときには、できるだけ優しく教えたりして、認知症が悪化しないように支えたいです。

・僕は、認知症の人をできるだけサポートして、認知症の人も楽しく過ごせるようにしたいです。

・もし私が認知症になったら、、、と考えました。これからは認知症の人に出会ったら、優しく対応していきたいです。

・自分にできることは、優しく、はっきりとした口調で話をすることです。自分がその人だと考えて行動したいです。

講座の最後には、稲美町キャラバンメイトの方から認定証を頂きました。今日から母里小学校の 6 年生のみなさんは認知症キッズサポーターです。自分にできることを考えて行動していきましょう。